学校だより 9月号

地域と連携し、「今を精いっぱい生きる」生徒を育む学校

狭山市立柏原中学校
ＴＥＬ２９５４－５０７３

◎東日本大震災被災者の皆さまに、心からお見舞い申し上げます。
◎皆さまの安全と一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

生徒と共にがんばります！

校長　田中茂樹

２学期が始まりました。まず、初めに過日行われました「親子バレーボール大会」の開催に際しまして、ＰＴＡ本部役員の皆様、当日お手伝い、競技に参加してくださった保護者の皆様にお礼を申し上げます。生徒・保護者・教員が混合チームとなり楽しい一時を過ごすことができました。ありがとうございました。

次に、家庭訪問、三者面談でも大変お世話になりました。ご多用の中、時間を作っていただきありがとうございました。その時話し合われたことを２学期以降のお子さんの成長に生かしていきたいと思います。

さて、お子さんは、どのような夏休みを過ごしたでしょうか。夏休みに入って、各学年で補習を行いました。意識が低いのか参加回数が少なかった生徒がいたことが残念でした。

そこで、改めまして、本校を会場に行われている「柏中土曜寺子屋」についてご案内をさせていただきます。面倒を見てくださるのは、狭山市青年会議所の方々と募集によりお集まりいただいたボランティアの方々です。事前に参加者を募り、すでに「プレ寺子屋」を８月２０日、２７日の両日に行いました。２学期以降の土曜日に開催を予定しています。第１回は、９月３日（土）に行います。随時募集していますので、お子さんと話し合ってみてください。

２学期は、大きな行事が目白押しです。しっかり準備をさせ、生徒一人一人が、クラスが当日１００％のパフォーマンスを発揮できるように支援していきたいと思っています。私にとっては久々の中学校の体育祭、音楽会・弁論大会、新人戦ですので、楽しみにしています。

話は変わりますが、夏休み中次のようなことがありました。それは前号にも書きました「履き物」をそろえるということです。来校してくる生徒は、普段使っている昇降口ではなく２階の職員玄関を使います。履き物はそろっていません。そろえておくと次の日からほとんどそろうようになります。体育館の通路脇の履き物も同じです。気がつく心が育っている生徒がたくさんいるのがわかり、うれしく思います。ご家庭ではどうでしょうか。今月も暑い日が多そうですが、生徒共々健康に留意しながら頑張っていきたいと考えています。　（裏へ）

９月の主な行事予定

１（木）	始業式
２（金）	避難訓練
３（土）	土曜寺子屋　8:50～11:00
６（火）	４市テスト（３年） 学年朝会（３年なし）
７（水）	集金日
８（木）	学年練習
９（金）	ダンス・組体操（１，２限） 学年練習
１０（土）	土曜授業日（３限：緑化作業）
１２（月）	合同練習（３，４限）
１３（火）	学校朝会 学年練習、合同練習（３，４限）
１４（水）	合同練習（３，４限）
１５（木）	体育祭予行（３～６限）
１６（金）	合同練習（３，４限）、 体育祭準備（５限）
１７（土）	体育祭
１８（日）	
１９（月）	**敬老の日**
２０（火）	**体育祭振替休業日**
２１（水）	体育祭予備日・片付け
２３（金）	**秋分の日**
２４（土）	柏原小学校運動会
２７（火）	生徒朝会
２９（木）	全国学力学習状況調査（３年）
３０（金）	市内新人大会
１（土）	市内新人大会

※予定ですので変更になる場合がありますので、ご了承ください。

最近の出来事から思う－親子の綱引き－

1　最近の出来事

自分の欲求が満たされないとき、何らかの事情から親や兄弟姉妹、友人や他人を殺害したり、簡単に物を盗んだりする子どもたちがニュースで取り上げられました。また、親が虐待をし、死に至らしめるという事件も後を絶ちません。

2　全能感

赤ちゃん時代には子どもは何をやってもほとんど許されます。これがほしいと思えば、そのほとんどを手に入れることができます。だから、子どもは自分は何でもできると思ってしまいます。これが「絶対的全能感」とか「無条件の全能感」といわれるものです。赤ちゃんは、肉体的にも心理的にも考えることの範囲が限られているため、客観的に見れば、行動や欲求がかなり制限されているように思えます。赤ちゃん自身は「何でもできる」「ほしいものは手に入る」という全能感に満ち溢れているというのです。

何でもできると思っている子どもが年長になり、「できないものがある」「許されないこともある」という事実に直面することによって、今までもっていた全能感が崩れていきます。そして子どもは現実的な自己像をつくり上げていきます。これが子どもの発達の重要な一面です。

3　子どもとの綱引き

全能感の崩壊は、子どもが満１歳を過ぎる頃から徐々に始まりますが、本格的には３歳前後に活発に行われます。それは、「しつけ」の時期に入るからです。この時期になると、「これを食べなさい」「もうテレビはやめなさい」「寝る時間だよ」などといった親の要求が多く出されるようになります。そのとき、「こうしなさい」「やっちゃダメ」という親の要求と「イヤ！」という子どもの要求の間で綱引きが起こります。遊びやゲームなどでも親子間での勝敗を争うようになるのです。

そういった親子の綱引きで親が勝つか子どもが勝つかによって、それ以降の親子関係、子どもの自己概念や生き方が決まってくるように思います。子どもの気質や性格、兄弟の有無、家庭環境の差異、親の子育て観などによって親子の綱引きの形は多様ですから、そのため、子どもの全能感からの脱却のしかたもいろいろな形をとると推測できます。

全能感から脱却したことによってやる気をなくしたり、何をやってもどうせできないと信じるようになった子どものやる気を引き出すためには、戦略として綱引きで負けてやることも必要になるかも知れません。しかし、どうしても親が勝たなければいけないときがあります。子どもは、親子の綱引き場面で、泣いたり、怒ったり、すねたりと、いろいろな手段を使って抵抗するでしょう。しかし、子どもが綱引きに勝ってばかりいると、全能感を助長してしまい、やらなければならないことを「嫌だからやらない」とか、やってはいけないことを「やりたいからやる」というふうになり、全能感は弱まるどころか、むしろ増大してしまいます。

4　綱引きの勝敗は

現在６歳未満の子どもが自動車に乗るときは、チャイルドシート装着が義務づけられました。少し古いですが、ある新聞の記事によると半分以上の親が装着せずに運転している状態が続いているそうです。つまり、半数以上の親子が法律違反を犯していることになります。

道路交通法違反云々よりも、チャイルドシートの装着という親子の綱引きの中で、半数以上の子どもが親に勝っているという事実を示している点がこの記事の重要なところです。チャイルドシートをつけるとき、その時の機嫌によって子どもは激しく嫌がることがあります(孫を見ていて実感しています)。親は、シートをつけていないと死亡率が跳ね上がること知っています。また、道交法違反で減点されると考えている親もいます。一方、子どもは嫌で必死に抵抗します。先の記事によると、年少者ほどシートの未装着率は高く、年長になるほど着けるようにはなりますが、平均すると６歳未満の子どもの半分以上が未装着のまま車に乗っているということになります。

命にかかわるチャイルドシートの装着についてさえこういう状況なのですから、「嫌いなものでも食べなさい」「時間だから寝なさい」「遅れるから早く着替えなさい」などという生活習慣上の綱引きとなると、子どもが勝利する比率はもっと高くなるのではないでしょうか。

別の新聞ですが、こんな記事もありました。６人の父親でもある弁護士、今は大阪府知事の橋下徹氏の親子の綱引きには目を見張るものがありました。『妻が注意したことに怒って、二男が彼女を蹴飛ばそうとした。私は尻をたたき、３時間近くかけて“ごめんなさい”といわせた。』また、『子どもとの勝負事では絶対に負けないように心がけている。チェスの前には本を読み、予習してから臨む。トランプの“神経衰弱”では、裏からカードの中身が分かるいかさまトランプを使ってまで圧勝した』。いかさまトランプを使うのはどうかと思いますが、「強い父親」を伝えたいという橋下氏の思いは傾聴に値すると思います。ここに、助長しがちな子どもの全能感を小さいうちに破壊し、「自分にはどれだけの力があるのか」ということについて、正常な自己概念を育てる一つの具体的な子育て法が示されているように思います。

5　ときにはムチを

自分の欲求が満たされないとき、何らかの事情から親や兄弟姉妹、友人や他人を殺害したり、簡単に物を盗んだりする子どもたちが持つ、絶対的で無条件な全能感を小さいときから破壊しておかないといけないというのは、前述の通りです。全能感を壊すやり方の一つとして確実なことは、親子の綱引きに親が勝つことであると思います。子育てには時にはムチも必要ですが、アメも必要です。しかし、何事もバランスが大事です。極端な場合は、野放図になり挙げ句の果てに制御不能になったり、逆に親の一方的な思いや不寛容から虐待になってしまうのでしょう。

これからも生徒のために、保護者・地域共に育てていきたい(共育）と考えています。何なりとご相談ください。